硫黄島レポート
―観光の島を目指して―

人文社会科学研究科
1113860031 宋多情

１．はじめに

今回の硫黄島実習は、様々な分野で島を研究し始めた学生たちが島嶼学概論という授業で集まり、自分の研究フィールド以外の島についても見聞を広げた上で、最後には実際に島を訪ねてそれぞれの目線で島を観察し、考察する形で行われた。

現在、私は文化人類学を勉強しており、研究テーマは奄美大島の観光と地域振興であるので、今回は自分の研究を活かして硫黄島が観光の島を目指すためにどのような方向へ進むべきであるか自分なりに考察することにした。一泊二日の短い時間だったので、硫黄島の全ての観光スポットを訪ねるのは無理であったが、全般的に重要なところは見ることができたと思う。私は実際に訪問したところを観光と繋げ、硫黄島の行政および住民の立場と観光客の両方の立場で自分なりに考察してみた。

２．硫黄島について

硫黄島は鹿児島から南へ約 100km 離れている人口 150 人の小さな島である。硫黄島は竹島と黒島と共に三島村と呼ばれ、三つの島の中心地になっている。鹿児島港から竹島まではフェリーで 3 時間、そこから硫黄島までは 30 分で着く。島にだんだん近づくと噂で聞いた黄色の海が見えてきた。港内の海は多量の鉄分を含んだ温泉が海底から湧出しており、海水との反応で独特な色になっていたのであった。

我々は港のすぐ近くにあるジャンベスクールに荷物を置いて三島開発総合センターに向かった。そこの 2 階には資料館があり、鬼界カルデラについて先生方からの説明を聞いた。本格的な見学の前に、最も重要である島の形成過程を理解することができた。また、このセンターには島の人も観光客もただで利用することができる温泉があり、硫黄島の中心施設であると感じた。次に向かったのは、恋人岬展望台に行く途中にある岬橋であった。赤い岬橋の両端は絶壁ですこし怖かったが、そこからは港内から遠い海まで色が三段に分かれているのを一目で見渡すことができて素晴らしい景色であった。

その後は三島小中学校で校長先生から島の教育について話を聞いた。三島村には小中学校しかなく、子供たちはみんな高校生になると島から離れて生活するようになる。校長先生は島の子供たちが成長して島に戻ってくるように教育していると話した。特に、学生たちがジャンベに携わることによって鹿児島で賞をもらったり、有名な奏者とのコラボで世界に三島村を知らせたりすることなどによって自然に地域貢献をしていると言う話がすごく印象的だった。また、しおかぜ留学制度もいいと思った。他地域でいじめられた子供が自然の豊かさと島の人々との触れ合いの中で癒され、いじめを克服し強い子に育つことができると思った。

校長先生との話が終わって、我々は宿所であるジャンベスクールに戻って来て１時間ほ

どジャンベを学んだ。みんなで歌いながらジャンベを演奏したり、踊ったりしてとても面白かった。このジャンベスクールでも毎年ジャンベ留学生を受け入れていて、遠いところからジャンベをやりたくて島まで来たという話が印象的だった。最後に向かったのは東温泉だった。東温泉は海辺にある露天風呂で、入ったら自然の一部になるような、自然そのものの温泉であった。気を付けないと海に落ちる危険があるので安全のため管理人がいるのはいいと思った。

夜にはみんなとジャンベスクールで懇談会があった。昼にあちこちで会った島の人々も来ていろんな話を聞くことができた。ジャンベをやりたくて、あるいは島の地域おこしに興味があって仕事をやめて島に来た人や、家族で一緒に島に来て農業をやってる人など、ここに来たきっかけは様々であったが、若い人々が島に来て何かやるというのは、これからの島の未来に繋がる大事なことだと感じた。

３．考察

今までの見学を基にして硫黄島の観光について考察してみると、硫黄島の観光は自然環境、歴史、文化という三つの要素に分けられる。この三つの観光要素は互いに関係があり、そのなかで最も重要なのは豊かな自然環境を利用した観光である。硫黄島は鬼界カルデラに形成された火山島であり、今も活動している活火山なので火山島独特の様々な特徴を観光資源として利用することができると思う。例えば、夏休みなどに島の小中学校を利用してキャンプを行い、本島の子供たちに硫黄島へ来てもらって島の子供たちと交流しながら様々な体験をすることが考えられる。孔雀の観察や、牧場体験、椿の実採り体験、竹の子の収穫など普段の生活ではなかなかできない自然を経験することができると思う。我々が硫黄島に来る時、フェリーで一緒だった家族たちのように家族で硫黄島に来てもらって家族みんなが楽しめるパッケージツアーを作ることもできると思う。特に、冒険ランドは施設も景色もいいのに宿泊料金が驚くほど安くて、大きな経済的負担なく長い期間ゆっくり過ごすことができる。

歴史の観点から見れば『平家物語』に語られるように、俊寛が流刑された地が硫黄島であると伝承されている。この俊寛の歌舞伎は２回硫黄島で行われた。また、文化的な要素としてはジャンベを見逃すことができないと思う。我々が鹿児島に向かって出港する時にみんながジャンベを演奏しながら踊ってくれたことがとても嬉しかった。

最後に、今、三島村に最も必要なのは、島を他地域に知らせて認知度を高めることだと思う。一般的に見て、日本の人々にとって南の島とは沖縄のことであり、南西諸島の小さな島々はよく知られていない。そのため、硫黄島でしか体験できないことなど島独特の土地柄を知らせ、興味を持ってもらうことが大事である。南にある小さい島を、みんながぜひ一度は行ってみたいと感じるような島にすることは難しいかもしれないが、硫黄島なら、硫黄島の人々ならできると思った。あれほど自分たちの島を愛して、島を訪ねる人々と本気で向かい合ってくれる硫黄島には、地域や人々の暖かさが今でも残っていると感じた。また、硫黄島に、三島村に行きたくなった。